

落差に大きな違いがある。しかし、もう林道が見えてきており、他に滝がかかっている様子もない。どうやら上流の大岩部分が合わさって林道からは1つの滝のように見えたものようである。そう考えれば10mの落差も納得がゆく。右岸のゴースト帯をたどって簡単に下ってしまった。そのあとすぐ林道に出る。下降終了11:45。 (記

[タイム] 尾根(10:15)→沢(11:05)→林道(11:45)

那須の沢

那須・御沢 (隠居倉沢)

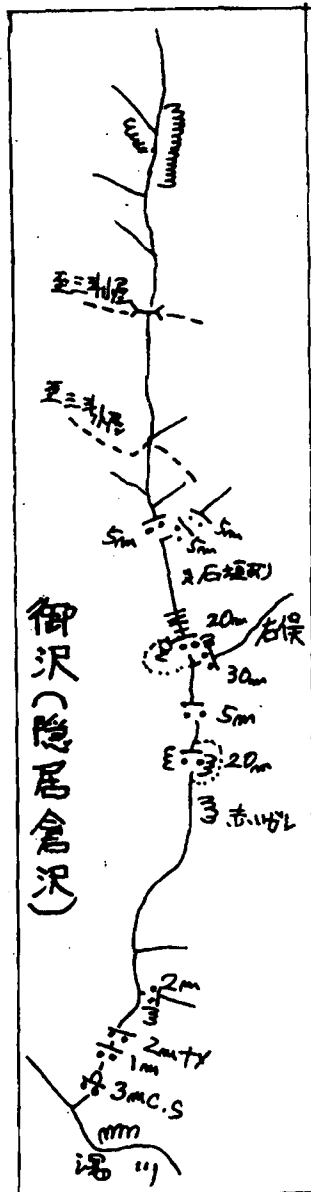
1990年7月21～22日

7月21日 快晴。 つくば(13:30)⇒幕営地(17:30)

三斗小屋宿へ向かう林道は荒れていて、とても奥まで車を取り入れる気にはならない。大沢出合の先で林道が右岸に移ったすぐ先の広場まで入り込み、テントを張って眠り、翌日の遊行に備える。

7月22日 快晴。 幕営地(5:15)→湯川出合(5:30)→御沢出合(6:05)→二俣(7:40)→登山道(8:20)→登山道(9:10)→剣ヶ峰(9:55)→朝日岳(10:35)→隠居倉(11:15, 11:35)→三斗小屋温泉(12:00)→三斗小屋宿(12:50)→幕営地(13:30)

早朝より行動開始。三斗小屋宿と沼原を結ぶ登山道が湯川を渡る所から沢に入る。30分程遊行し、左岸に側壁が現われ右にカーブしたところが御沢出合である。御沢の水は少し酸っぱく、沢床の石は赤っぽい。一方これまで遊行してきた湯川の石には、御沢との合流点より下流部だけ白っぽい沈着物が着いている。御沢の水が湯川の水と混ざりあうことによって、何か化学反応が起こるみたいである。



御沢は出合に3mのC.S.滝をかけ、沢は暗く、前途有望と思わせたが、すぐ明るく開けた河原となってしまふ。30分余り河原歩きを続けていると、やがて左岸に赤いガレが現われ、その先に待望の滝が出てきた。20m。泳いでとりつければ直登できそうにも思えたが、無理をせず左岸を捲く。そのあと続いて5mの滝。ここは腰まで入ってとりつき、左岸を直登する。気分がのってきて先が楽しみになってきた所で、30mの滝の下半分ほどが見えてくる。やあまた滝があると近づいていったら、二俣。見えていたのは右俣の滝であるが、左俣にも20mの滝がかかっている。右俣の滝に未練を残しながらもここは本流の左俣へ。

左俣の20m滝はちょっととつりきようがないので、右岸を捲く。下った所はちょっとしたナメであった。イオウの臭いがしてきた。沢筋の何カ所かに見られた湧水に、白い沈殿が見られたが、噴気は認められなかった。

左岸の高い所に石垣が見えてきた。あの上あたりを登山道が通っているのだろう、もうすぐ出合うはずだと話しながら進む。やがて5mの滝。右岸にとりつこうとしたが、ホールドが少なく、結局右岸を捲く。この沢の核心部はここまで。あとは平凡な河原が源頭まで続いた。

8:20三斗小屋温泉と沼原を結ぶ登山道に出合う。そしてその50分後には、三斗小屋温泉と峰の茶屋を結ぶ登山道と出合う。もう滝もかからない。やがて前方に隠居倉の岩場が見えてくる。そしてそれに続いて朝日岳から剣ヶ峰に続く岩場も見えてきた。源頭をどうこなして稜線に出るかちょっと迷ったが、右へ右へとルートをとって剣ヶ峰に出るのが最も合理的のようである。幸いガンコウランの群落が浮石をある程度はおさえてくれている。落石に注意しつつ、一步一步登って剣ヶ峰へ。遊行終了9:55。せっかく那須へ来たのだからと、朝日岳の頂上を踏み、隠居倉、三斗小屋温泉を経て下山する。

()